

EMCジャパン株式会社 システムズエンジニアリング本部 吉田尚壮



免責事項

ここで紹介する製品は、まだリリースさえれておらず現在開発を 進めているものです。

開発方針の変更などの理由により、ここで示した仕様が正式 リリース時には一部変更される可能性があることを予めご了承 下さい。



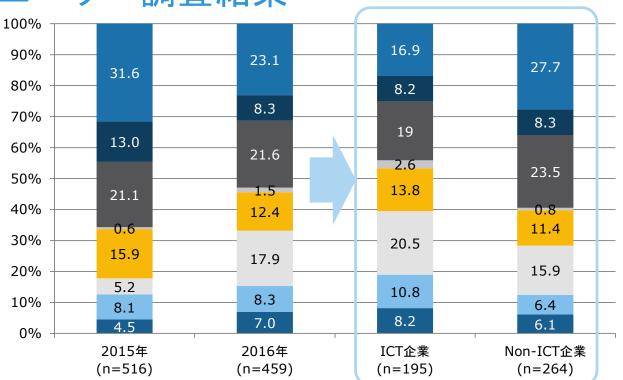
アジェンダ

- 1. OpenStack導入に関わる状況
- 2. 新登場! 直ぐに使えるOpenStack
- 3. デモンストレーション
- 4. 変わりつつあるITの姿



国内企業におけるOpenStackの導入状況に関する

ユーザー調査結果



- OpenStackを知らない
- ■今後どうしていくか分からない
- ■現時点で使う事は考えていない
- ■検証したが使えないと判断した
- ■情報収集や勉強している
- ■使用する計画/検討がある
- ■試験的に使用し、検証している
- ■既に本番環境で使っている



出典: IDC Japanプレスリリース「国内企業におけるOpenStackの導入状況に関するユーザー調査結果を発表」(2016年5月11日)

国内企業におけるOpenStackの導入状況に関する ユーザー調査結果

OpenStackに期待する効果	
クラウド基盤の運用の効率化	25.7%
クラウド環境の構築の迅速化	21.7%
アプリケーション開発の迅速化	21.1%
自社エンジニアのスキルアップ	19.7%

OpenStackを使用する上での課題	
OpenStackに精通している エンジニアが少ない	28.3%
セキュリティの脆弱性に不安がある	25.7%
半年ごとのメジャーリリースに 合わせた対応ができない	19.7%
ネットワーク環境の構築/管理が難しい	19.7%



企業におけるOpenStack導入に向けた「取り組み方」の傾向

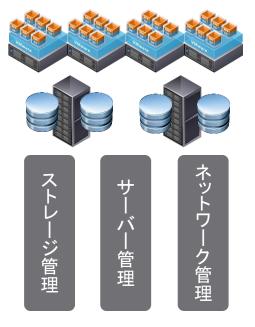
各社のIT部門マネージャやエンジニアの方々からお聞きした話

- •「IT部門がOpenStackの導入を推進する」
- •「物品調達と構築方法は従来と同じ手法で進める」
- 「現場にナレッジは溜まりつつあるが、本番導入時はSIまたは ベンダーに構築(および運用)を委託する」
- •「OpenStack導入後も組織や個々の役割に変更予定はない」

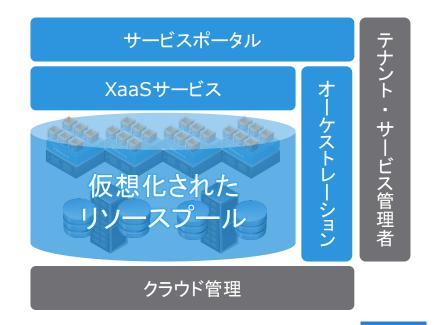


「新しい視点での管理」と「役割」の必要性

サーバー仮想化



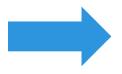
プライベートクラウド





しかし、現実は・・・

OpenStackの導入で 人員は増えるか?



増やさない

OpenStack担当部署を 新設するか?



新設しない

OpenStack専任者は いるか?



既存業務と兼任



現場の懸念



もしも、こんなものがあったら便利ですよね





アジェンダ

- 1. OpenStack導入に関わる状況
- 2. 新登場! 直ぐに使えるOpenStack
- 3. デモンストレーション
- 4. 変わりつつあるITの姿



直ぐに使えるOpenStack!

OpenStackベースの「ハイパーコンバージドインフラ」



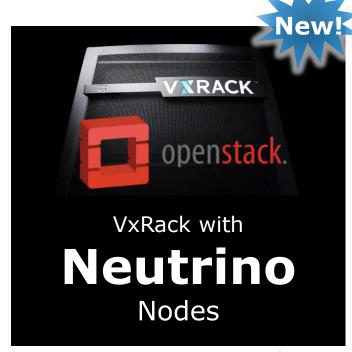


短期導入 設計・検証済みシステム

TCO削減



高度な自動化標準装備された管理機能



2016年8月リリース予定 (国内は2017年上半期リリース予定)

俊敏性向上



高速プロビジョニング 容易な拡張

エンタープライズグレード



ー 構築リスク低減 アップグレードリスク低減



単なるハイパーコンバージド+OpenStack?



違います!

OpenStackが入っている だけじゃないんです!



OpenStackの複雑さを排除し、使い易さを追求

業界標準的なソフトウエアを採用し、 高機能化と使い易さを追求























その他

エンタープライズ級の 要件を設計に組み込む

> 可用性 冗長性 拡張性 管理性 保守性 性能担保

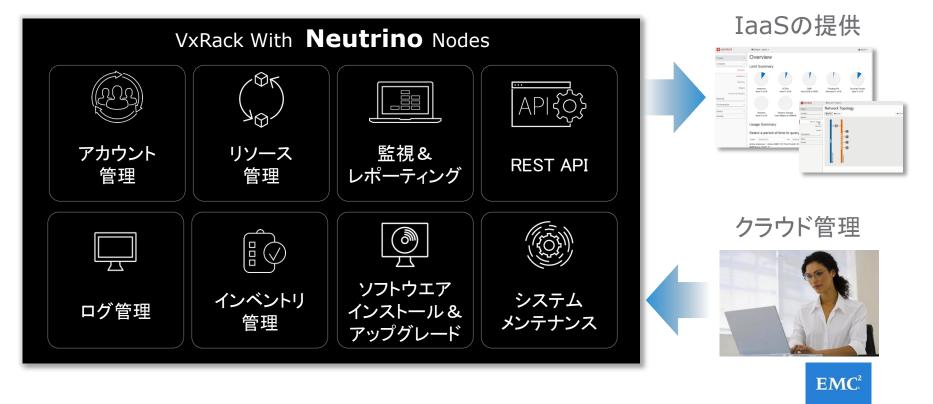
統合UI **REST API** 自動化 負荷分散

安心して使える **OpenStack**

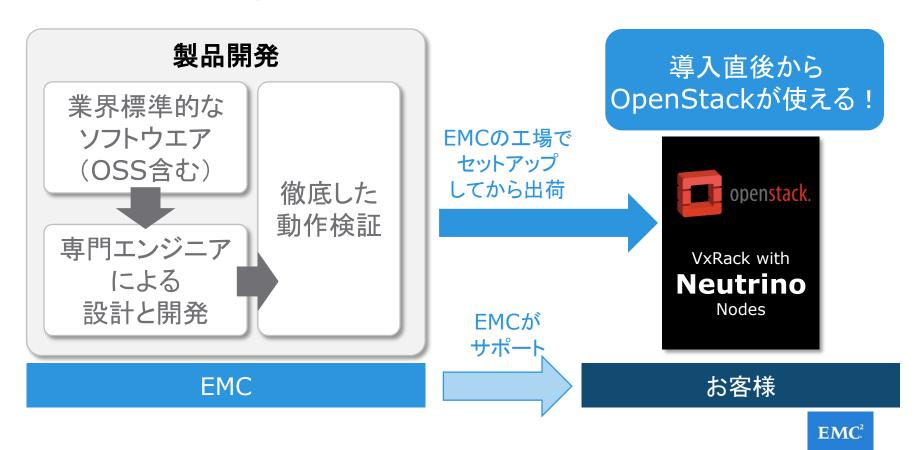




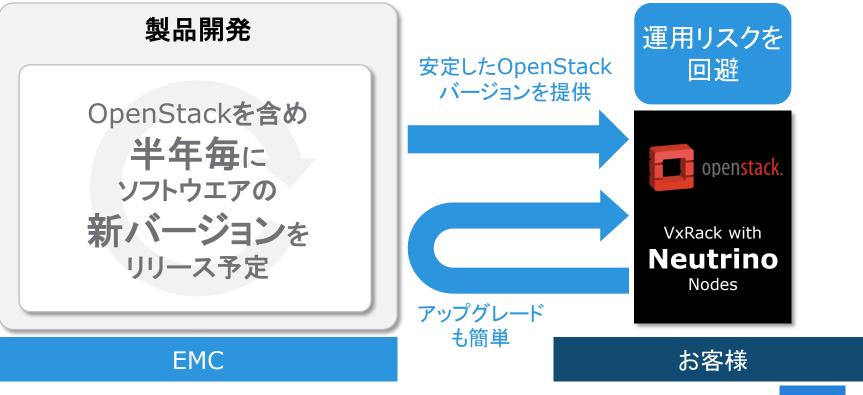
予め管理機能まで組み込まれているから 導入直後から運用が始められる



確実に動くOpenStackが手に入る!

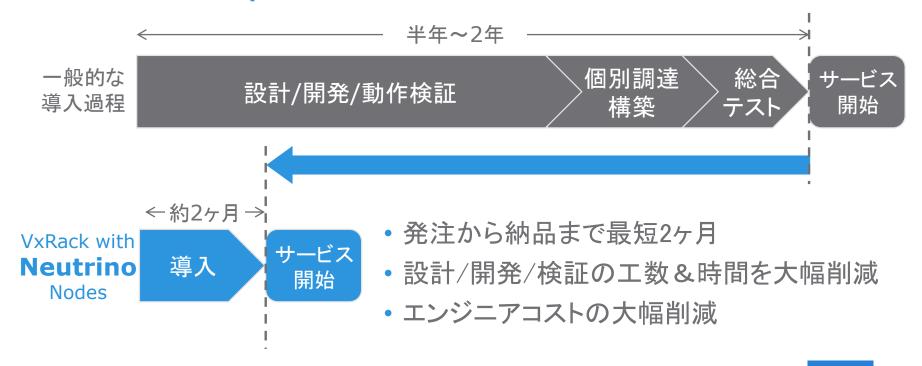


安心してOpenStackが使える!



こんなシーンに最適(1)

「短期間でOpenStackを導入したい」

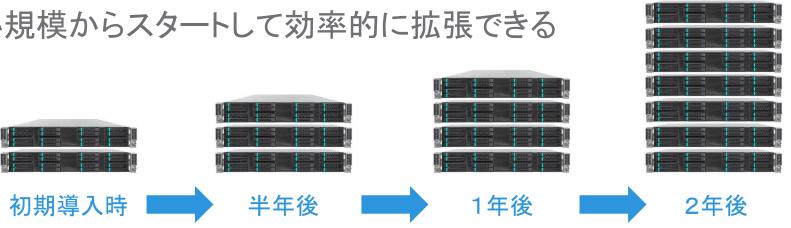




こんなシーンに最適(2)

「小規模から始めたい(スモールスタート)」

- ハイパーコンバージドインフラだからノード (ブリック)単位で拡張できる
- 小規模からスタートして効率的に拡張できる

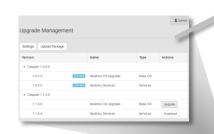




こんなシーンに最適(3)

「安全・確実にアップグレードしたい」

- 管理UIから簡単操作で アップグレードできる
- ソフトウエアアップグレードに 伴う検証作業工数を削減
- EMCにて検証済みのため、 処理が失敗するリスクを 回避できる



- 管理UIから 最新パッケージを ダウンロード
- 簡単操作でアップ グレード完了

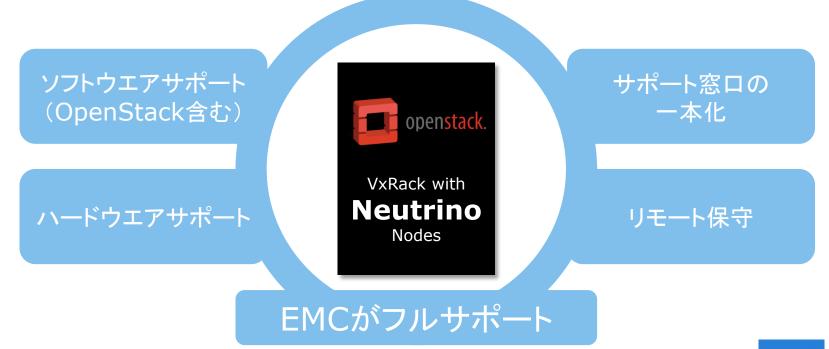


EMCサポートサイト



こんなシーンに最適(4)

「OpenStackのサポートが欲しい」



こんなシーンに最適(5) 「専任エンジニアが少ない」

従来手法 新しい手法(Neutrino) 半年~ 不要(実装済み、定義済み) ソフトウエア選定と設計 1年 数ヶ月 構築作業(各種ソフト設定含む) 不要(完成品を導入) ~半年 不要(定義済み) 各種監視設定 数週間 シンプル&短期 拡張作業 数ヶ月 シンプル&安全 バージョンアップ作業 数ヶ月

こんなシーンに最適(5) 「専任エンジニアが少ない」

従来手法

工数の増加 プロジェクトの長期化 高リスク 新しい手法(Neutrino)

工数の大幅削減 短期導入 低リスク



アジェンダ

- 1. OpenStack導入に関わる状況
- 2. 新登場! 直ぐに使えるOpenStack
- 3. デモンストレーション
- 4. 変わりつつあるITの姿



コンポーネント: IaaS層

VxRack with

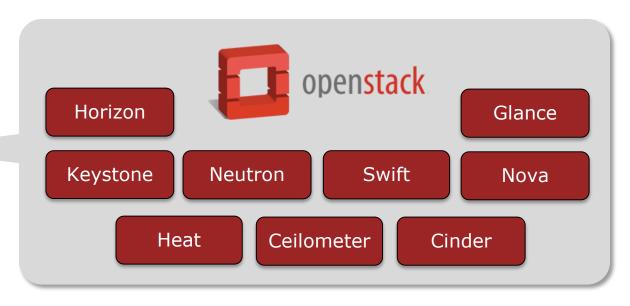
Neutrino

Nodes

IaaS

管理 ソフトウエア

ハードウエア



- コミュニティー版を実装して提供
- Ironicなど、その他プロジェクトの追加予定あり



コンポーネント: 管理ソフトウエア層

VxRack with

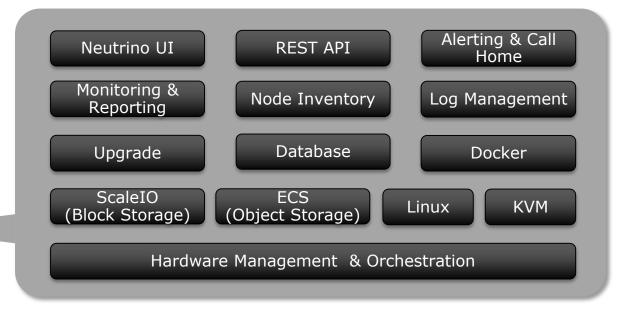
Neutrino

Nodes

IaaS

ソフトウエア

ハードウエア



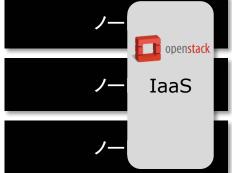
- OSSを中心とした業界標準ソフトウェアを管理機構に採用
- 独自のインテグレーションにより、利便性を向上



コンポーネント: ハードウエア層

VxRack with **Neutrino Nodes** IaaS 管理 ソフトウエア ハードウエア





管理ノード 冗長構成で安心!

コンピュート ノード 「拡張」も「縮小」も 自由自在!



10分で終わる超簡単なノード拡張・縮小操作

コンピュートノードに必要なソフトウエアを自動インストール!

ステップ1

GUIから追加するノード を選択し、「展開」ボタン をクリックする



ステップ2

バックグランドで処理 が自動的に実行される

- インストール (OpenStack、ストレー ジ、管理ソフトウェア等)
- 各種設定
- 構成変更



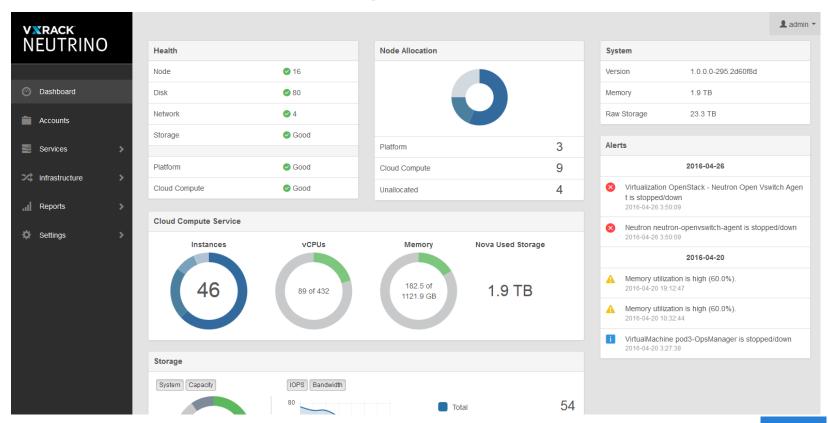








デモンストレーション:管理UI





アジェンダ

- 1. OpenStack導入に関わる状況
- 2. 新登場! 直ぐに使えるOpenStack
- 3. デモンストレーション
- 4. 変わりつつあるITの姿



IT投資のシフト 2015年: 2.7兆ドル IT投資額 "投資を強化" "効率化に集中" デジタル IT トランスフォーメーション トランスフォーメーション トラディショナル クラウドネイティブ 2030 2000 現在

Source: IDC



トラディショナルとクラウドネイティブの違い

トラディショナル クラウドネイティブ アプリケーションの マイクロサービス モノリシック アーキテクチャ ソフトウエアの オープンソース プロプライエタリ 採用方針 インフラの 仮想マシン コンテナ テクノロジー

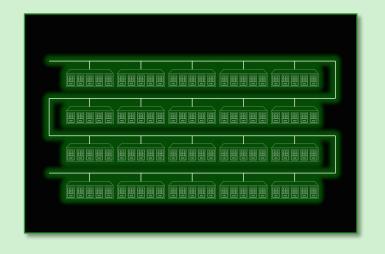
トラディショナルとクラウドネイティブの違い

トラディショナル LAN/Internet Client/Server PC

クラウドネイティブ

Mobile Cloud Big Data Social

Mobile Devices





トラディショナルとクラウドネイティブの違い

トラディショナル

LAN/Internet Client/Server PC

信頼性と安定性

予測可能なワークロードを維持 インフラ(H/W)層で可用性を担保 展開までの期間が長い アプリの改修頻度が低い

クラウドネイティブ

Mobile Cloud Big Data Social

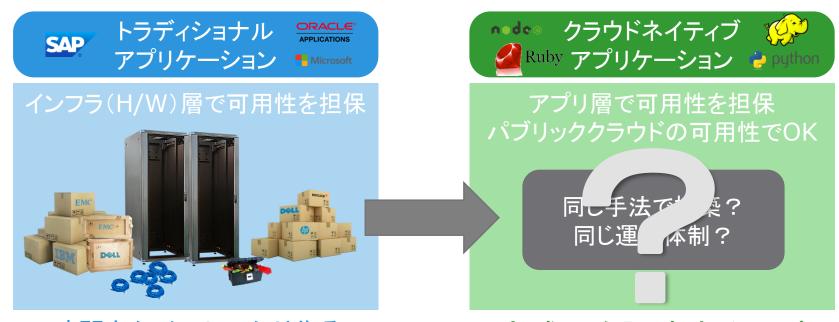
Mobile Devices

俊敏性と伸縮性

常に変動するワークロードに対応 アプリケーション層で可用性を担保 迅速な展開 アプリの改修頻度が高い



エンジニアの時間と労力をどこに使うべきか?



時間をかけてしつかり作る (構築も管理者の「役割の一つ」だった)

完成品を調達するのが 賢い選択!

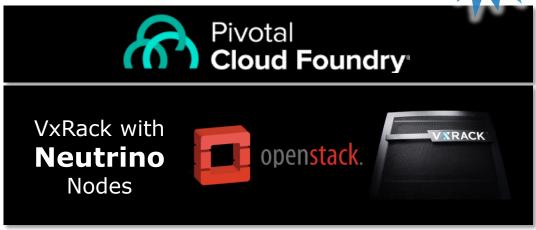


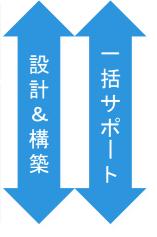
クラウドネイティブアプリに最適な PaaSも直ぐに手に入る!!

Native Hybrid Cloud



PaaS + IaaS

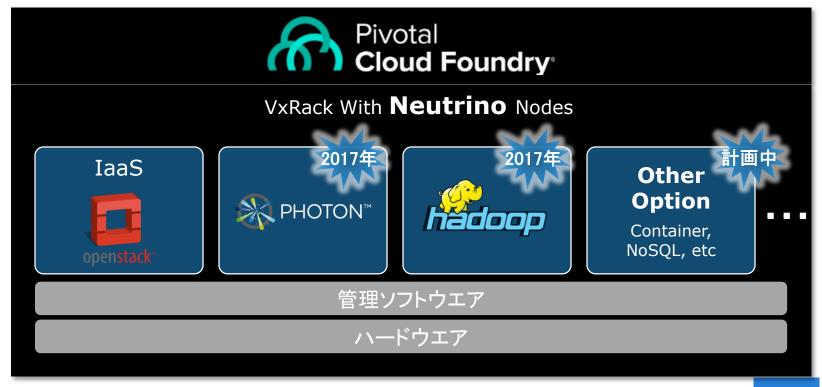




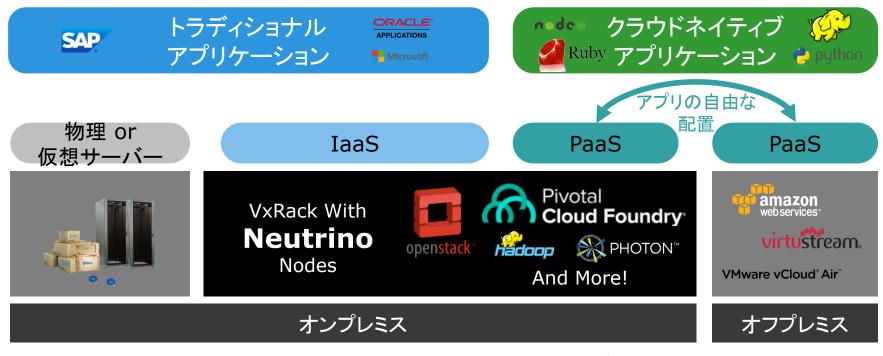
2016年10月リリース予定 (国内は2017年上半期リリース予定)



お客様の選択肢を増やして、更に使い易く!



賢い選択がITの効率的な変革を促します



パブリッククラウドのユーザー体験をオンプレミスで実現



選択肢はあります。 あなたは次世代ITに何を選びますか?

- OpenStackの導入を短期間で実現し、 運用もシンプルに!
- ITインフラの将来像を意識した選択を!

ご興味があれば弊社営業へご連絡下さい。 本会場内の「EMCブース」でも詳しくご紹介いたします。

E Marie Carlos C

ご静聴いただき、ありがとうございました。